

財団の概要

(1) 設立及び目的

当財団は、従来から文化活動の場と機会を提供する町田市民ホールの事業運営を行っていた「町田市文化振興公社」と市民が国際交流活動の中心となって、主体的・創造的な活動を行っていた「町田国際協会」が統合され、「財団法人町田市文化・国際交流財団」として2004年4月に町田市により設立されました。

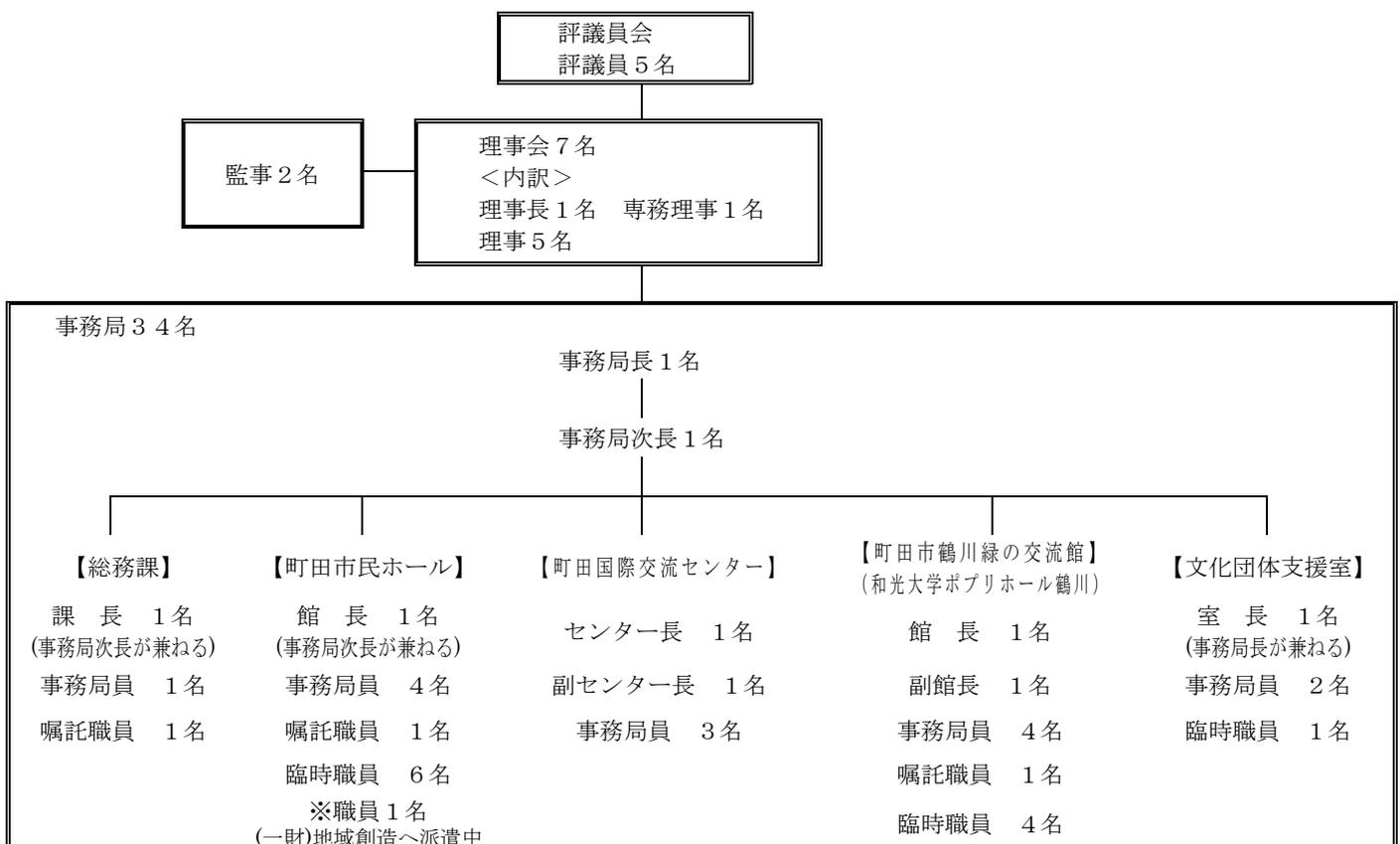
設立された財団は、「地域文化を創造し、その発展を図るとともに、市民活動充実のための支援、地域における国際交流活動の推進を図り、もって文化の香り高く国際感覚豊かなまちづくりに寄与する」ことを目的としております。

その後、公益法人制度の改正に伴い、2011年4月に「一般財団法人町田市文化・国際交流財団」として新たにスタートし、現在は、町田市民ホール、町田市鶴川緑の交流館（以下「和光大学ポプリホール鶴川」という）及び町田国際交流センターで主な事業活動を行っています。

町田市民ホールは2006年4月から、和光大学ポプリホール鶴川は2012年9月から、各々の施設で指定管理者として管理しておりましたが、2022年4月から2027年3月末までの5年間は新たに両施設を一体で指定管理者の指定を受けることとなりました。

(2) 基本財産 300万円（町田市からの出捐金）

(3) 組織図（2023年3月31日現在）



事業報告

2022年度も新型コロナウイルス感染症拡大による影響は大きく、財団の運営状況は厳しい状況でした。

施設利用に伴うガイドライン及びチェックリストを作成し、安全安心に施設をご利用いただくために、手指の消毒、マスクの着用、三密の回避等の感染防止対策を徹底しました。また、入場者の定員を50%以下におさえる等、感染状況に応じた対策を講じて安心して、公演を鑑賞していただける環境を整えるとともに、国・都・市等の補助金を活用し財務基盤の安定に努め、コロナ禍においても、公演を鑑賞し楽しむ機会を提供することにより文化の振興に寄与しました。

2023年2月には、町田市民ホールがリニューアルオープンし、1年5ヶ月ぶりに和光大学ポプリホール鶴川との2館での事業が再開し、少しずつ活気がもどりつつあります。

また、町田国際交流センターでは、オンラインを活用して活動の継続を試み、国際交流を推進し外国人と市民との友好の輪が広まるように努めました。

◎ 芸術文化及び市民文化の向上に関する事業（第1号事業）

（1）文化活動の支援及び市民参加型事業

新型コロナウイルス感染症及び町田市民ホールの休館の影響により、文化団体等の文化活動は停滞していましたが、感染状況に応じた対策を工夫し、徐々に活動が再開され、活気が戻り始めました。特に市民ホールの改修工事が終了し再開してからは、3年振りに町田市郷土芸能まつりが開催されるなど、スムーズに文化活動が再開できるよう文化団体と連携を図ることで31事業を実施しました。

例年実施している「町田市民文化祭」は、通常会場としている町田市民ホールが休館中のため、和光大学ポプリホール鶴川を中心に町田市内各所での分散実施となりましたが、主催の（一社）町田市文化協会や参加団体のご協力により、円滑に実施することができました。

和光大学ポプリホール鶴川では、サロンコンサートや鶴川ショートムービーコンテストなどを継続して開催するとともに、東京都交響楽団の協力により、鶴川地区の保育園や子ども園へコンサートを届ける訪問コンサートを実施しました。加えて、東日本大震災から継続して被災地支援を行っていた（一社）鶴の羽の会が今年度限りで解散することから、例年行っていた陸前高田写真展に併せて、3月11日に財団主催事業である映画上映会に震災関連の映画を選定し、（一社）鶴の羽の会によるトークイベントを組み合わせ、これまでの被災地支援活動について、広く市民の皆様を紹介することができ、改めて東日本大震災の恐ろしさを思いおこし、この経験を語り継ぐことの重要性を再認識することができました。

(2) 文化の提供事業

コロナ禍においても、安全安心に鑑賞できる環境を作り、落語公演やクラシック音楽のコンサート、映画上映会、市内施設を使用しての展示会等、市民の皆様楽しんでいただける事業を提供しました。また、2023年2月には、町田市民ホール再開にあわせ、リニューアルオープン記念事業を開催するなど計66事業を実施しました。

○主催事業

【町田市民ホール】

大規模改修による休館中は、市内の施設を利用して11事業、町田市民ホールが再開してからは6事業、計17事業を開催しました。

休館中は、各市民センターで開催した「ふれあい落語&コンサート」をはじめ、町田薬師池公園四季彩の杜西園で開催した「夏休み図鑑作成プロジェクト」、町田市民フォーラムで開催した夏休みシネマ「かいけつゾロリ だ・だ・だ・だいぼうけん!」、町田市にいながら世界を体験できる「まちだ de 世界旅行」など親子向けの事業を開催し、多くの方に楽しんでいただきました。

再開後すぐに「piano公開リレー試弾会」を開催し、休館中に眠っていたピアノを弾いていただくとともに客席を一般に開放してピアノの響きを確かめていただきました。リニューアルオープン記念事業として2月に開催した「春畑道哉 MICHIYA HARUHATA SPECIAL LIVE」では、春畑道哉さんが町田市出身ということもあり、多くの方に楽しんでいただきました。

その他、「和太鼓 東京打撃団」では、形式やスタイルにとらわれない新しい感性で、「太鼓」の持つ可能性を追求した、魅力あふれるステージとなりました。また、第4会議室を活用した落語会「若手真打発掘プロジェクトまちだ」を開催し、身近に応援できる落語家さんを見つけていただき、伝統芸能である落語を町田市に根づかせる機会をスタートさせました。

【和光大学ポプリホール鶴川】

「開館10周年記念シリーズ」として開催した6事業を含み、計25事業を開催しました。

「開館10周年記念シリーズ」では、「金子三勇士ピアノリサイタル」「小菅優ピアノリサイタル」は人気演奏家による質の高い公演を比較的安価な入場料で実現しました。どちらもピアノソロ公演であり、お客様にはポプリホールのスタインウェイ・ピアノの音色や響きを存分にお楽しみいただきました。「柳亭小痴楽・桂宮治二人会」は、人気若手真打の共演であることと、メディア出演が多く、知名度が高い桂宮治師匠が出演することもあり、若年層のお客様や、ホールでの落語を初めて観るお客様に多くご来場いただきました。また、「神田伯山独演会」では、チケットが即完売となり大反響となりました。

その他、ウクライナ在住の日本人姉妹によるピアノ演奏「ウクライナ・チャリティー

コンサート」を開催し、売上金を全額寄付いたしました。

さらに、ホストタウン関連イベントとして、12月に館全体の諸室を活用して同時多発的にプラネタリウムやワークショップイベントを実施する「まるごとインドネシア！」を、2月には町田国際交流センターと連携し、「ジャワの影絵芝居ワヤンと舞踊&子ども向けワヤン人形づくりワークショップ」を開催し、幅広い年齢層のお客様にお越しいただきました。また、これらの事業を開催することにより、市内在住のインドネシア関連の方とのネットワークを結ぶことができ、今後の事業展開へつなげることができました。

例年行っている「水曜午後の音楽会」は、実力派の若手演奏家による特色あるプログラムが好評で、多くのお客様にお越しいただいています。映画上映会では多彩なジャンルの映画を上映し、市内で良質な映画を安価な価格で観ていただける機会を提供することで、お客様には大変好評で、継続を望むご意見を多くいただいています。

○共催事業

【町田市民ホール】

大規模改修による休館中は、市内でエンターテインメントレストランの運営と文化事業の提供を行っている「まほろ座MACHIDA」と連携した事業や、(公財)日本テレビ小鳩文化事業団との共催事業である「スクールコンサート」など11事業を開催し、町田市民ホールが再開してからは1事業、計12事業を開催しました。

特に、休館中は、「まほろ座MACHIDA」にご協力いただき、“まちだ de 奏でる まほろ座×(一財)町田市文化・国際交流財団”を冠につけた10事業を開催し、市民が文化芸術に触れる機会を減らさないように努めました。再開後に開催した「立川志の輔 独演会」では、久しぶりにチケットも完売し、以前のような活気が見られました。

【和光大学ポプリホール鶴川】

落語を中心に12事業を開催しました。

毎年実施している「柳家小はぜ勉強会」では、10月開催分から定員制限を解除し実施しました。「第四十五回鶴川落語会～扇遊・鯉昇二人会V o 1.3」「第四十六回鶴川落語会～正蔵・喬太郎ガチンコ二人会V o 1.10～」は定員制限せずに開催し、どちらも師匠方の持ち味が存分に発揮された上質な落語会となり、ご来場いただいた皆様にお褒めの言葉を多数いただきました。

「宇海 UUMI 奏～あなたとわたし～」では、宇海さんの力強い歌声とピアノの澤近さんの演奏が調和した質の高いライブとなり、地元ダンスチームとのコラボや映像配信も行われ大盛況でした。その他、「キッズ伝統芸能」では町田市内の小学生が当館で篠笛を稽古して、国立劇場での本番に臨みました。

(3) 協力事業

新型コロナウイルス感染症の影響や町田市民ホールの休館により、市民の文化活動の停滞が多く見られましたが、市民団体や文化団体などの負担が増えないように、通常の協力事業の支援範囲にこだわらず、臨機応変に広報や運営を支援することで31事業を実施することができました。

特に、市内各所で開催された交通安全協会の「笑って学ぶ交通安全の集い」に協力し、比較的多い中高年の交通事故防止の注意喚起に一役買うことができました。あわせて、(一財)町田市地域活動サポートオフィスと協働し開催した「みんなの経験共有会」では、地域で活動している団体同士のつながりを広げることができました。

財団の管理施設以外の外部会場で行なわれた、(一社)町田市文化協会の茶会、華道展、研修会など、「パリコレッ！ギャラリー」、「町田時代祭り2022」、「町田市民美術展」などの事業に協力し、大変好評を得ることができたことで、町田市民ホール休館の影響が最小限に留まるよう活動しました。

また、和光大学ポプリホール鶴川で開催した「高橋里奈ピアノリサイタル」「伊藤富貴子ピアノリサイタル」では、主に告知宣伝の面で協力し、地元演奏家の活躍の場を広げる支援を行いました。

(4) 受託事業

町田市がホストタウンであるインドネシアからパラバトミントンナショナルチームが来日した際、日本文化の体験事業を受託し(一社)町田市文化協会と協働し、生花と茶道体験など5事業を実施しました。民生委員退任式での記念演奏会では、市内在住の演奏家に出演していただくなど、地元アーティストの活動の場を広げる支援を行うことができました。

◎ 町田市が設置する文化施設等の管理運営に関する事業 (第2号事業)

【町田市民ホール管理運営受託】

施設の老朽化に伴い、2021年11月1日から2023年1月31日までの15ヶ月間休館し、改修工事を行いました。

2022年度は2023年2月、3月の2ヶ月間の開館でしたが、ホールの利用率は81.0%、会議室は45.0%、練習室は43.6%、ギャラリーは43.6%となりました。

新型コロナウイルス感染症対策としては、引き続き正面入口にサーマルカメラの設置や諸室に消毒液の設置などを行い、安全安心に利用できる環境整備に努めました。

【和光大学ポプリホール鶴川管理運営受託】

2022年度は、コロナ禍ではありますが利用制限の緩和、町田市民ホールの休館、近隣自治体のホールの休館などの影響による利用増加が見られました。施設利用率は

ホールが92.2%と高い利用率となりました。諸室においても制限利用の中、多目的室は60.9%、練習室は70.1%、会議室（4室）は63.9%、エクササイズルームは70.7%となり、いずれも前年度より増加となりました。

利用者の安全性確保のため、前年度に引き続き入り口での体温チェック、諸室内の消毒液の設置を行いました。また、交流スペース・共用スペースの利用時間の短縮などを実施しましたが、一方でホール客席の全席開放や、図書館と連携した催しの実施、カフェで焼き立てパンの販売開始などがあり、全体の利用者数・来館者数は増加傾向となりました。

開館10年を過ぎ、空調機やトイレ等の不具合や、雨漏りによる修繕箇所が多く発生しています。これらには早急に対応するとともに、より安全で快適に利用できるよう環境整備に努めています。

◎地域における国際交流活動の推進事業（第3号事業）

町田国際交流センターでは、7つのボランティア部会が中心となり国籍や民族などの異なる人々が互いの文化の違いを認め合い対等な関係を築きながら、地域社会の構成員として共に生きていくという多文化共生社会の構築のために4分野の事業を企画しました。

地域文化の創造と国際交流の促進及びまちづくりの視点から、子ども教室や日本語教室、相談等の外国籍住民への支援事業や国際理解・国際交流事業を実施しました。

2023年4月1日現在、110ヶ国8,315人（町田市の人口の約1.9%）の外国籍市民が町田市に居住しており、2022年4月1日と比較すると、933人増加しています。国籍別では、主に中国3,003人（36%）、韓国1,007人（12%）、ベトナム792人（10%）、フィリピン693人（8%）、米国282人（3%）となっています。

分野別事業活動

① 外国人支援事業

- 日本語教室は4月にオンライン（Zoom）による支援活動を行い、5月より対面支援を再開しました。オンラインと対面の学習者は130人、支援者は97人で、合計326回の支援を行いました。
- 子ども教室は対面及びオンラインによる「日本語支援、教科学習支援他」を44回行いました。その他、「腹話術・バルーンアート体験」、「遠足」、「支援者向けのブラッシュアップ講座」、「入学準備説明会」、「お楽しみ会」をそれぞれ1回ずつ開催し、全体で延べ子ども82人、保護者24人、支援者126人の参加がありました。
- 外国人相談部会では、電話やオンライン、対面による外国人のための生活相談等を週3回実施し、相談件数は359件ありました。
- その他、病院等への同行・電話・オンライン通訳88件、町田市等からの翻訳依頼

が15件ありました。また、年1回開催の東京外国人支援ネットワーク主催「外国人のためのリレー専門家相談会」では9件の相談がありました。

② 国際理解・協力事業

- 外国人支援と国際交流への貢献を目指し、あわせて異文化理解の一環として、5言語（英語、中国語、韓国語、スペイン語、タイ語）8サークルを開催しました。
- 小中学校での総合教育の一環として行われる国際理解教育支援授業のため、講師の派遣を3校に行い、合計300人の児童・生徒が参加しました。
- 国際理解・協力部会は町田発国際ボランティア祭「夢広場」を開催し、8団体が出展、約800人の来場がありました。また、講演会「国際結婚で私なりに見えてきたこと」を開催し、講師のリード眞澄先生から25年間の日本語教師としてのお話を聞くことができました。8月には「バナナで世界を知ろう」を開催し、6人の児童がワークショップを通して身近な存在であるバナナの生産地や生産者、手元に届くまでの過程や問題を知ることができました。また、町田市生涯学習センターとの多文化共生共催事業「まちだ de トークプラザ～日本で働く外国人～」を開催し、45人が参加しました。

③ 国際交流事業

- 国際交流部会では、日本文化を紹介するイベントとして町田市文化交流センターで行われた町田市民文化祭の「お茶会」に3カ国9人の外国人が参加し、茶道を体験しました。
新規事業としての外国籍住民とオンラインで交流する「おしゃべりくらぶ」を実施し、来日して日の浅い外国人住民が安心して生活ができるように交流を図りました。

④ 情報提供・連携事業

- 町田国際交流センターの活動を広くPRするため、市役所イベントスタジオで5日間展示・活動紹介を行い、33人が来場しました。また、8月に新たな会員を獲得するためにオリエンテーションを開催し、15人が参加しました。
- 桜美林大学サービスラーニングセンターとの連携事業「外国籍未就学児への日本語学習支援プレスクール」に大学生10人が参加しました。
- FC町田ゼルビアホームゲーム外国人招待事業では6カ国23人、町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ！」では、「竹灯籠を作ろう」と「世界のスポーツで遊ぼう」に親子33人が参加しました。
- 「まちだウィークエンドストリート2022」に参加し、子ども向けの体験型ワークショップ「世界を知ってカードを作ろう！」に32人が参加しました。
- 町田市内日本語支援団体連絡会では、三者会議を2回開催し、12人が参加しました。
- 多文化共生社会を築いていくためのイベント「まちだ de 世界旅行」の中の1つの

事業である中国料理教室に協力し24人が参加しました。

- ホストタウン関連事業ではインドネシア伝統芸能「ガムランとジャワ影絵芝居ワヤンクリと人形作りワークショップ」に協力し、61人が参加しました。
- 地域日本語コーディネーターによる多文化共生の勉強会を会員対象に3回開催しました。また、日本語学習支援ボランティア基礎講座を開講し、39人が受講しました。あわせて就学前外国人親子への小学校入学説明会に協力しました。

◎ その他この法人の目的を達成するために必要な事業（第4号事業）

〔広報事業〕

町田市民ホール、和光大学ポプリホール鶴川及び町田国際交流センターの事業を広く市民にPRするため、財団情報誌「コンサートガイドまちだ」を年6回、「ぼろんていえ」を年6回発行しました。

また、ホームページ、市内各所にある掲示板へのポスター掲示や横断幕などに加え、武相新聞をはじめ、地元の生活情報紙「ショッパー」や地域情報紙「タウンニュース」、シニア世代の情報紙「定年時代」等へのコンサート情報の掲載など、市民に様々なメディアを通して情報提供を行いました。

〔チケットシステム〕

2017年6月から「かわせみオンラインチケットシステム」で導入しているインターネット予約によるコンビニエンスストア（セブン・イレブン）でのチケット受け取りを推進した結果、2023年3月31日時点での会員登録者数は19,067名で、2022年3月31日と比較すると、3,843名、およそ1.25倍の増加となりました。

〔自主事業：レストラン・カフェ運営〕

町田市民ホールのリニューアルオープン後、「レストラン」を運営し、2023年2月、3月の営業日数55日、総客数4,400名の利用がありました。

また、和光大学ポプリホール鶴川にて「カフェ」を運営し、新型コロナウイルス感染症拡大防止策として時間短縮を行いました。年間の営業日数338日に対し総客数27,259名の利用がありました。

〔人材育成〕

例年、大学生のインターンシップ及び中学生の職場体験を受入れています。中学生の職場体験につきましては新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となりました。大学生のインターンシップについては、①町田市民ホール・和光大学ポプリホール鶴川において3大学4名、②町田国際交流センターにおいて3大学3名の学生をそれぞれ8日間受け入れました。

財団では2021年3月に策定した「第二期（2021年度～2025年度）人材育成基本方針」に基づき、職員のモチベーションアップにつながる行動規範等を示しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大や町田市民ホールの休館が重なり、計画通りに取り組むことは難しい状況でした。そのような中、財団独自の自己啓発費用補助制度により職員の自己啓発を進めました。職員自ら他館でのコンサート、ミュージカルや落語などを体験することによって、新型コロナウイルス感染症への対策やコンサートの企画等について学び、財団の管理運営のあり方を考える機会となりました。

〔その他〕

2020年度より引き続き町田市内産農産物の地産地消への協力のため、和光大学ポプリホール鶴川と改修工事後の町田市民ホールの入口付近にクックパッドマーケットステーションを設置しました。あわせて、株式会社京せん堂との財団管理施設におけるパンフレットラック設置に関する協定書により、両館と町田国際交流センターの共有スペースに民間事業者情報を配置し来館者に提供するとともに財源確保に努めました。

また、改修工事後には町田市民ホール正面入口エントランスに、町田市の自転車対策への協力としてシェアサイクルの駐輪場（サイクルポート）を1台分増やして全部で5台分提供しました。